

令和6年度学校自己評価シート(本庄第一中学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。 教育目標 「高い学力の養成」「人間力の育成」「希望進路の実現」
本年度の目標	1 向上心を持ち、互いを認め高め合う集団の育成 2 地域社会から期待と信頼を得られる環境づくり(説明会・体験入学会の充実・地域への貢献) 3 「折れない心」「負けない体」「チャレンジし続ける精神力」を有した、愛され必要とされる若者の育成

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員等)	名
生徒	名
事務局	名

※番号欄は本年度の目標番号と対応させている。

学校自己評価			年度評価(令和7年3月31日現在)		学校関係者評価	
番号	課題	評価項目	年度目標	年度評価(令和7年3月31日現在)	学校関係者からの意見・要望・評価等	
			具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	○生徒各位が将来を見据えた進路選択ができるよう日々のやり取りの中で意識改革を行う。 ○上記目標設定を果すための具体的方策を各人に考えさせ、確認し改善の促しを行う。 ○授業・復習課題・演習を通し、反復学習を徹底し基礎学力の定着度を高め、演習力を身に着けさせる。	進路実現への取組	○生活指導・学習指導・行事等、学校生活の様々な場面で一人ひとりが自らの将来を想像し、進路実現に向けて主体的に取り組む環境を継続的に創出する。 ○基礎学力習得に向け、授業内容について理解・定着させるため課題を提示し家庭学習を習慣化する取組を行う。 →復習課題の定着度を復習テストで確認 →未定着内容を再度学習する流れを徹底 ○希望進路獲得に焦点を絞り、1・2年次より高校入試を意識した演習授業を行う。3年次年は解答時間・問題を解く順序・各問題への時間配分意識し問題を解く、また解答スピードをあげる演習授業を実践。 ○生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい進路指導の実践。	○一人ひとりが主体的に生き生きとした生活を送り、学校生活への満足度が高いか。 ○継続的に復習テストを実施した結果、十分な学力定着が図れ、主体的な学びの姿勢が育成できたか。 ○前年実施の模擬試験結果と本年度の実績を比較し、各自の偏差値平均のアップが図れているか。 ○進路を意識した活動を生み出す効果的な指導を行えたか。 ○各生徒の進路目標を実現することができたか。	○学期ごとおよび年度末に実施しているアンケートにおいて学校生活への満足度は一定以上の評価を受けることができています。 ○授業→復習テスト→再テストのルーティンで学力定着および学習習慣を確立する目標についてはやや課題が残った。 ○特活でのキャリア学習、教科担当から進路意識を喚起する働きかけに加え、全学年を対象にオープンスクール、2年生を対象に上級学校訪問、3年生を対象に学校説明会参加を指導、進路実現への意識を高めることができた。 ○希望進路実現100%を実現することができた。地域最難関校合格を果たすなど成果を上げることができた。	○入学時より『希望進路実現』に対するモチベーションを持って日々の学校生活に取り組みめるよう、生徒・保護者の希望を把握し適切なアドバイスを行っていく。 ○各自の進路実現に向けクラス担任・授業担当者をはじめ職員一丸となり充実した指導体制を継続、適宜指導体制のアップデートを実施する。 A ○日々進化する社会の動きに対応し未来の担い手となって活躍できる人材を育成することを意識した職員集団の意欲的な姿勢の継続。 ○生徒個々の成長に合わせ組織的なフォローを実現。適切な助言と軌道修正システムの構築。
	○家庭学習習慣の徹底、また徹底させるためのアプローチ方法の工夫。 ○学習に対する更に意欲的な取組みへの動機付けと個々の目標とする学力獲得を実現できる指導方法の創出。 ○生徒の理解度を高める授業の実践および実力定着のための学習サイクル作り。	授業改善の取組	○学習内容定着のため、家庭学習の習慣化を徹底する。アプローチ法の工夫・声掛けを継続し、保護者の協力を仰ぎ、教・生・保のトライアングル関係を強化し、面談等で進捗確認をする。 ○体系的に生徒の学力アップにつながる効果的な指導を展開できるよう、学級担任・教科担当・学習指導係の打ち合わせを継続して実施する。 ○授業アンケートの実施により授業者の目的達成度を確認、次の課題を明確化し改善点を確認をする。	○家庭学習として提示した復習課題の提出状況は十分だったか。 →復習テスト実施結果の数値 ○生徒の授業に臨む姿勢や反応は良かったか。 ○教員の授業準備や授業運営は質の高いものであったか。 ○授業に対する満足度は高まったか。 ○外部模試等において、生徒各位の成績向上が見られたか。	○年度末に実施した授業アンケートの結果、動機づけが適切になされ、主体的に参加できる授業に対しての満足度が高いことが確認できた。 ○その日の学習内容と家庭学習をリンクさせ、主体的な学びが展開された。結果として定期考査・模擬試験において学力定着が認められた。 ○生徒の学力伸長にフォーカスした教科担当による様々な工夫が功を奏し、学習の意義づけ・意欲の向上・主体的態度の育成の各項目で向上が見られた。	○指導体制の現状把握とより良い授業策定のための実践例・研究結果等、情報収集の継続。 ○生徒の理解度を高める授業の実践および実力定着のための学習サイクル作り。 A ○体系的に生徒の学力アップにつながる効果的な指導を展開できるよう、担当者間(学級担任・教科担当・学習指導係)の打ち合わせを継続して実施する。
2	○本校に対する認知度を高め、生き生きとした生徒の活躍を保護者、地域社会にPRすることを目的とした、学園ホームページのリニューアルとSNS等を活用し広報活動の充実。 ○在校生保護者のみならず、地域社会や入学希望者が行事等で多く足を運べる広報活動の策定。 ○教育理念や学園取組についての理解深化の仕組みづくり	開かれた学校づくり	○学園ホームページや各種SNSを活用し、本校の取り組みや教育活動、生徒の活躍を広く発信する。 ○在校生保護者や家族をはじめ地域の皆様に在校生の活躍を披露できる機会を計画すると同時に効果的な周知を展開する。 ○時代に即したPTA組織編成と活動内容のアップデートを行う。 ○地域社会への教育理念と指導体制周知および地域貢献を目的とした取組の継続と深化。	○学園ホームページの閲覧数の増加。 ○各種SNSのフォロー数の増加。 ○ホームページやSNS等を媒体とした学校行事やイベントへの参加者数の増加。 ○地域社会への教育理念と指導体制周知および地域貢献を目的とした取組の継続と深化。	○リニューアルした学園ホームページで学校生活の様子、部活動の活躍、入試情報等を対象に向け分かりやすくリリースすることが出来た。 ○高校生スタッフによる『広報チーム』の活動が更に充実し、Instagram / YouTube / TickTockの各SNSフォロワー数を拡大することができた。 ○複数の広報媒体を活用し学校行事やイベントPRを行い行事等への来場者数増を実現できた。 ○PTA組織の再編成により、保護者が学校行事等により関わりやすい環境が整備された。	○本校に学ぶ生徒の活躍を通して、100年の歴史を誇る本学園の特色を多くの対象に発信しより広く支持を受ける学園へと成長を続ける。 ○情報発信の対象に、スपीディーかつ効果的に情報を伝えられるよう情報発信ツールのアップデートに努める。 B ○保護者や入学希望者への学校公開日を複数回設け、学校の取組みを広く公開する機会を継続する。 ○地域および外部団体より講師を招き専門性の高い講義を生徒へ提供する機会を継続する。
	○保護者、小学生、地域への生徒の活躍や活動、学校の取り組みなどの積極的な情報提供。 ○学校の考え方、計画、実際の諸活動を知らせる。 ○生徒募集行事への参加者を募る。	生徒募集広報活動	○「本庄第一通信」を発行。 ○様々な媒体(ホームページ・Instagram・LINEなど)を通じて認知度を高め、各種イベントへの参加促進のために効果的な情報発信を行う。 ○オープンスクール、学校説明会、学校見学会、入試説明会、入試対策講座等の生徒募集行事の機会を活用し本校の認知度をアップに繋げる。 ○ホームページ・Instagram等を活用し、生き生きとした生徒の生活の様子・活躍をタイムリーに発信し、本校の教育活動をPRする。 ○部活動などをはじめとした生徒の様子を様々なアプリ等を利用して、幅広く情報を発信する。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 ○様々な媒体を通じての効果的な情報発信ができたか。 ○オープンスクール、学校説明会、入試説明会、入試対策講座の参加者数が昨年比増となったか。 ○ホームページの情報を適宜更新し、学校生活の様子や、生徒の活躍をわかりやすく知らせ、閲覧者が増加したか。 ○公務支援クラウドシステムを利用した情報発信ができたか。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できた。 ○来校者のアンケートからHPや部活動のインスタ、イベントチラシを見て来校したとの方々も多く、効果的な情報発信ができた。 ○小学生向けイベントにおいて昨年度より参加者数を増加させることができた。 ○イベント案内を小学校や塾等へ複数回配布したことで、本校の認知度を上げることができた。 ○入試対策講座の参加者は概ね受験につながることができた。 ○フルクラウド統合型校務支援システムを利用し、受験希望者へ向け効果的な情報発信ができた。	○本校の特色をより分かりやすく魅力的に、広く地域社会へ発信し、より多くの受験者・入学者から高評価を得る。 ○学習・部活動・各行事における生徒の取り組み、活気あふれる様子を様々な広報媒体(ホームページ・Instagram・LINE・チラシ等)を活用し、周知できるようにする。 B ○多くの小学生(クラブチーム等での活動をしている小学生も含む)が興味を持つような内容、また足を運びやすい行事運営をこころがける。 ○募集行事の内容を精査し、参加者を増加させるとともに、参加してくれた家庭(保護者・本人)の満足度をあげる。
3	○何事にも積極的に取り組める向上心と自立心を有する生徒の育成。 ○場面に応じふさわしい振る舞いができる生徒の育成。 ○健康で安全な中学校生活にふさわしい基本的な生活習慣の徹底。 ○スマートフォンやインターネット等を利用する際のネットリテラシーの向上。 ○他者との関わりやコミュニケーションについて学び、いじめを未然防止する。 ○保護者会から自立し、自分自身で未来を切り開く自立型人間を育成する。	部活動や生徒会への積極的な参加 生徒指導	○生徒会活動(委員会活動含む)への積極的な参加を促し他者貢献の精神や協調性、そして自律心を育てる。 ○体育や部活動、校外活動(学校行事)を通して継続する力を養い、目標作成や達成するための力、挑戦し続ける力を育てる。 ○教員からの声掛けなどを通して挨拶や規則がしっかり守れる生徒を育てる。 ○生徒会・委員会を中心とした挨拶運動などを実施。 ○いじめ基本方針に基づいた取り組み。(いじめ実態把握アンケートの実施3回/学校生活についてのアンケート2回/いじめ撲滅キャンペーン実施など) ○情報セキュリティ講座・防犯講座などの開催。	○部活動や生徒会活動を通じて積極的に物事に取り組むことができるようになったか。 ○身だしなみ、言葉遣い等指導が必要な生徒がいたかどうか。 ○スクールバス・電車などの乗車マナーが守られたか。 ○場面や個々の発達段階に応じた教員からの声掛けの徹底ができたか。 ○生徒、教員ともに気持ちの良い挨拶を交わすことができたか。 ○アンケート等の取り組みや教職員の声かけ等啓発指導が徹底しいじめの未然防止・早期発見・早期解決ができたか。 ○講演会や日々の生活指導等を通してSNSおよびインターネットトラブルを未然に防止できたか。	○部活動や生徒会活動で、自ら進んで取り組む様子が見られた。 ○礼儀や言葉遣いに気を配り、相手への配慮を示し、場に応じた行動ができていた。 ○公共の場で、マナーの向上が見られた。 ○生徒と教員が爽やかな挨拶を交わすことができた。 ○アンケートなどを活用し、問題行動を早期に把握することができた。 ○講演会や日々の指導、生徒のSNSやインターネットの利用に対する意識が向上し、トラブルは発生しなかった。	○素直で明るく、どんな事にも主体的に取り組む自立心を育むことを継続。 ○公共の場でのマナーを身に着け、社会に求められる人材の育成。 ○社会生活の基礎となる挨拶や規則正しい生活習慣の継続を徹底。 A ○いじめの未然防止、早期発見、迅速な対応の徹底。 ○オンライン上のトラブルに巻き込まれないよう、日常的な指導を継続。 ○保護者に依存せず、自らの力で未来を切り拓く自立した人間の育成。